

2021年11月30日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【クリスマス相場に突入】

今日は、11月末日で、明日からは12月が始まる。

日本の勤労感謝の日が終わり、米国のサンクスギビングデー(感謝祭)も終わっているので、暦の上では、既に、「クリスマス相場」に突入している。

今週末(12月3日金曜日)には、米国雇用統計を控えているので、市場参加者は、まだ、クリスマスの休暇を取っていないのだろうが、米国雇用統計を終えれば、世界中の多くの市場参加者は、三々五々、休暇を取りだす。

そう考えると、今年もそろそろ終わりが近い、ということだ。

相場に関しては、年末に向けて、無理をしないで、来年に備える対応をすることで、と考えます。

+++++

直近のニュースでは、コロナウイルスの「オミクロン株」が話題になっている。

報道によると、現時点で、世界16の国と地域で感染が確認されている。

この新たな変異ウイルス「オミクロン株」に関しては、現時点で、まだ不明の点が多い。

感染力が強く、ワクチンの効果が無いのではないか、といった懸念が伝えられている。

しかしながら、そういった懸念にしても、1週間から2週間程度の時間が経過すれば、科学的な部分は判明する。

ことさらに恐れるよりも、冷静に対応する方が望ましいのだろう、と考えます。

日本では、まだ感染は見つかっておらず、岸田首相は、「全世界からの外国人の新規入国を、本日(11月30日)から原則停止にする」と発表した。

緊急避難的な予防措置としているが、この迅速な対応は、的確で、素晴らしい、と考えます。

前政権の時は、東京オリンピックの開催があるなどで、的確な対応ができなかったのだろう、などと考えています。

コロナウイルス問題は、今後も、当分の期間において、重要なテーマ（相場の材料）になるの  
だろう、と考えます。

言い換えれば、来年（2022年）においても、コロナウイルス問題に注視していく必要があるのだ  
だろう、と覚悟しています。

++++  
++++

（2021年11月30日東京時間14：30記述）